

優良特定給食施設に

厚労大臣賞 のみ込みやすく調理

山口市阿知須の阿知須共立病院が、栄養管理が必要な人たちに給食を提供する病院や介護老人施設などの模範となる「優良特定給食施設」として、厚生労働大臣賞を受賞した。今年度は全国の17施設が受賞し、県内からの受賞は9施設目。

(内山真理恵)



表彰状を披露する三好院長(中央)ら

同病院は医療法人協愛会が運営。救急指定病院で、内科、外科、整形外科、脳神経外科、透視セクターなどがあり、135床を有している。給食は外部に委託せず、栄養士らが院内で調理。「安全でおいしい食事を提供しよう」と、衛生面だけでなく、のみ込みことが困難で肺炎を起こしやすい患者も安心して食することができるような料理を導入している。

のみ込み力が弱い患者には、調理した料理を細かく刻んで提供するのではなく、食材を一度つぶして「つなぎ」を加えて再度固めて調理する「ソフト食」という手法を使い、素材一つひとつを味わえるよう工夫している。ひじき煮や鶏肉のから揚げも、舌でつぶして食べられる。調理に手間がかかるが、「食べる喜びを味わってほしい」という思

いがあるという。

給食で使っている地元産の食材についても、畑などの生産現場に向いて生産者に取材し、パンフレットに掲載して紹介している。地元根ざした病院食づくの一環で、患者や家族に

も好評だという。

三好正規院長(71)は「食は健康寿命を維持するうえで大きな部分を占めている。食事が患者さんらの日々の喜びとなるよう、今後とも栄養管理に力を入れていきたい」と話している。

定員設定カテゴリー募集終了

12月21日 行われる第45回防府読売マラソン大会(読売新聞社など主催)の事務局は、大会の七つのカテゴリーのうち定員を設けて募集していた五つが16日まで

「地域猫」活動 山口で学習会

県が主催

住民が協力して野良猫の世話をする「地域猫」活動についての学習会が、



「地域猫」について語る黒沢さん

山口市の県教育会館で開催された。活動の先駆者で横浜市神奈川区福祉保健センター職員黒沢泰さんが講演し、「猫好きがけではなく、嫌いな人や心のない人も取り組んで、そううまくいく」と呼びかけた。

地域猫は、住民が合意のもとでルールを作り、餌やりやフンの始末などを行う活動。不妊・去勢手術も協賛して繁殖を防ぎ、住民と猫が共生する。横浜市磯子区が1998年度にガイドライン(指針)を作成し、全国に広がったという。

県が主催し、約120人が参加。黒沢さんは「活動で不幸な猫が増えなくなるほか、猫を介して住民のコミュニケーションが図られ、地域の子どもらに命の大切さを伝えることもつながる」と紹介。一方で、「成果が出るまには時間がかかる」とも指摘した。

湯水時の工業用水
円滑な給水要望
知事に周南の利用者協
周南コンビナートの企